

平清盛の夢の跡 その1

平清盛 (1118~1181) とは？

平清盛は出家した後福原に山荘を構えました。その大きな目的は、大輪田泊で宋との交易を進めるためだったといわれている。瀬戸内海を頻繁に往来していた清盛は、大輪田泊の利便性に着眼し、宋船を引き入れるために、経ヶ島造成と言う大事業を行った。室町時代の日明貿易や近世の兵庫津の隆盛を見れば、清盛は実に先見性があったといえる。まさに神戸の港の基礎は清盛が作ったのである。

これまで史上まれにみる悪役とされてきた清盛が実は開明的で革新的な政治家であったとして見直されてきている。



- 1118 伊勢平氏忠盛の嫡男として生まれる
- 1156 保元の乱で後白河天皇の信頼を得て、播磨守に任ぜられる。公家の内部抗争の解決に武士の力を借りたため、武士の存在感が増し、武家政権へのきっかけとなる
- 1158 大宰府を実質的に支配する大貳となって日宋貿易を掌握した
- 1159 平治の乱で源氏勢力を一掃し、武士の第一人者として武家政権樹立の礎を築く
- 1167 武士として初めて太政大臣に任ぜられる (三か月で辞任)
- 1168 出家して「入道大相国」と呼ばれる 法名は「浄海」
平家の領地である福原荘に別荘を構え、移り住む (以後ほとんどを福原で過ごす)
- 1169 後白河法皇を迎え、千僧供養(※)を行う
(※)千人の僧を招いて食事を供し、法要を行うこと。当時は奈良や比叡山などだけでおこなわれており、和田浜で開催したことに、清盛の革新性がみられる。貿易船の航海の安全を祈った
- 1171 娘の徳子を高倉天皇 (夫人の妹建春門院と後白河法皇との子) に嫁がせ、天皇の外戚となる
- 1173 大輪田泊に経ヶ島を築く
- 1179 11月 平氏の権勢に反発する後白河法皇を幽閉し政治の実権を握る
- 1180 2月 安徳天皇即位し、清盛は独裁権力を掌握
5月 以仁王・源頼政挙兵
6月 福原へ都を移す 8月 源頼朝挙兵 10月 富士川の戦い
11月 都を京に戻す
- 1181 2月 死去 (享年 64 才)

福原京とは？

治承4年（1180）6月2日平清盛は安徳天皇、後白河・高倉両院をはじめ公卿や一門を率いて突如福原に下向した。清盛や弟の権中納言平頼盛や教盛の邸宅を御所とし、都を京から移した。これを一般には「福原京」と呼んでいる。

平清盛はすぐに本格的な都の造営を命じ、当初は和田（神戸市兵庫区南部・長田区一部）に新都（和田京）を建設しようとしたが、手狭なために断念した。かわって昆陽野（伊丹）や印南野（加古川）の代替案も検討したが、ともに一長一短で断念し、結局福原を新都に決めた。

その後、源頼朝や木曾義仲が挙兵すると、上皇や平家一門からも遷都への反発が強まり、11月に都を京に戻した。約170日間の、あまりにも短い遷都であった。

福原遷都の理由は？

- (1) 日宋貿易の基盤である大輪田泊に隣接した地に都を移し、貿易を更に推進して、平家一門、ひいては国自体を海洋国家として発展させようという壮大な構想を持っていたという説。
- (2) 古い王朝と決別し、安徳天皇を中心とした平氏系新王朝実現のため新都を建設しようとしたという説
- (3) 奈良や京都の寺社勢力の政治干渉を避けるためという説
以仁王の平氏追討の令旨が出されたとき、奈良の興福寺の他に園城寺・延暦寺なども反平氏の態度を鮮明にしており、これらを遠ざけようとした。
- (4) 源氏による反乱が激化する中、貴族たちの眼を遷都問題に向けさせる一方で、清盛は何度か参詣と称して巖島神社・宇佐八幡宮に出かけている。これは平氏の勢力圏である中国・四国・九州の家人の組織化を図るためであった。福原遷都は反平氏勢力の動向を見つつ、戦に備えるためであったとする説。
- (5) もともと京の都を放棄して福原へ遷都したのではなく、主都平安京と副都福原とが首都機能を分担する複都制ともいべき構想であったという説

① 楠・荒田町遺跡

この一帯は平安時代末期に平家一門の別邸が存在し、また福原京の有力跡地の一つである。2003年12月、神戸大学医学部附属病院構内の発掘調査が行われ、貴重な発見があった。

- ・二重の壕が平行して、東西約39m（2010年の調査により65mに及ぶことを確認）にわたって延びている遺構が出土した（現在は埋め戻され、駐車場の地下に保存）。建物の規模は不明であるが、少なくとも一辺が65mを超える壕で囲まれた大規模な邸宅と推定できる。
- ・大型の礎磐石をすえた櫓跡と推定される特異な掘立柱建物跡と考えられる建物跡が発見された。これは中世武家居館に附属する櫓ではないかと推定される。



- ・壕の北側から多くの土師器（はじき）が出土している。当時都で大量に使われていた京都系土師器と呼ばれるもので、主に貴族の宴会などで使用されたものと考えられる。その形状から12世紀後半から13世紀はじめの物と推定される。

以上のことから、京都に普段住んでいる身分の高い人の邸跡と考えられ、この地点の西にある荒田八幡神社付近に平清盛の弟平頼盛の邸宅があったと伝えられていることから、頼盛邸であった可能性が高い。

②宝地院

壇ノ浦の戦いで平氏一門とともに入水した幼帝安徳天皇の菩提を弔うために、弘安2年（1279）に安徳天皇の行在所（頼盛の山荘跡地）に創建された。境内には頼盛の山荘にあったとされる松の大木「山荘松」があったが、嘉永年間（1848～54）に落雷で枯れた。

③荒田八幡神社

福原遷都の際、平清盛の弟頼盛の山荘が安徳天皇の最初の行在所となった。この頼盛の山荘があったとされるのが、現在の荒田八幡神社一帯であったことから、境内に「史跡安徳天皇行在所址」の碑が建てられた（実際にはここに安徳天皇が滞在したのは一日だけで、翌日には雪見御所に移っている）。

また、昭和55年（1980）に建てられた「福原遷都八百年記念之碑」がある。

古くは高田神社といって熊野権現を祀っていたが、明治初めの神仏分離により宝地院の八幡社を合祀して荒田八幡神社となった。



④平清盛像

平野交差点には二体の像が建っている。一つは出家した浄海入道の姿である。音戸の瀬戸（広島県呉市）を日宋貿易のために切り拓いた時、清盛は扇で沈みゆく太陽を招いて戻し、その日のうちに難工事を完成させたという伝説に基づいて作られている。

もう一体は、りりしい武者像である。



⑤ 祇園遺跡

平成6年(1993)の有馬街道拡幅工事の際に発掘され、以後11次にわたる調査が実施された。平安時代の庭園(池と導水路・排水路、石垣)の遺跡が発掘され、池からは大量の京都産の「かわらけ」とよばれる素焼きの土器皿が見つかった。これは酒を酌み交わしたあと、戯れに池に投げ込んだものという。

また中国の「玳ひ天目小碗」といわれる茶道具として珍重される天目茶碗も発見されている。これは博多遺跡など日本で数点が知られるだけの貴重品である。このような陶磁器の発掘は盛んだった日宋貿易の様子を物語っている。

調査地が狭いために全体像は明らかになっていないが、この遺跡は平清盛に近い有力者の邸宅の一部、もしかしたら平清盛自身の邸宅の一部とも考えられる。



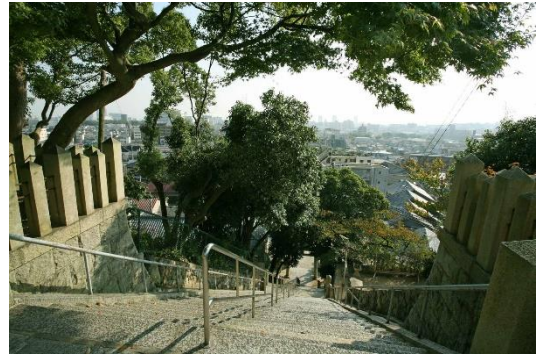
⑥ 祇園神社

貞観11年(869)都の疫病流行をはずめるため播磨国廣峰神社から京の八坂神社に牛頭天王(素戔嗚尊と同一視される)の分霊を移す途中、その神輿がこの地に一泊した。それを記念して旧平野村では社を建てて、牛頭天王を祭神として祀るようになった。

かつて平清盛は経ヶ島を築造する際、この神社の裏山にあったという潮音山上伽寺で、潮騒を聞きながら計画を練ったと伝えられる。

また境内には幕末に神戸港開港や外国人居留地設置に尽力した旧神戸村の大庄屋であり豪商でもあった生島四郎が奉獻した石灯籠がある。

同社の境内からは市街地や兵庫の港が一望できる。



⑦ 雪見御所旧跡



かつて天王谷川と石井川がつくるY字状の空間には明治時代まで「雪之御所」という小字があった。平清盛がこの地に複数持っていた邸宅の一つに雪見御所があり、現在の雪御所町がそのあたりと考えられている。明治38年(1905)湊山小学校の校庭から庭石と思われる大きな石が掘り出された。明治41年(1908)にこの石を使って「雪見御所旧跡」の石碑が作られた。

廃校となった湊山小学校の跡に「みなとやま水族館」ができているが、その一角に石碑は設置されている。

⑧夢野八幡神社

平清盛は福原遷都に先駆けて、都の守護のために1177年創建したと伝えられている。

平清盛は新都建設を計画し、福原荘全体が展望できるこの地でのろしを上げて、それを目印に東西10町、南北15町の条理の線引きを行ったと言われている。



⑨氷室神社



この地は夢野と言われるが、元来は禁野（いみの）といい、昔は高貴な人の墓所で殺生禁断の地であった。

平清盛は福原遷都の際、兵庫七弁天の一社として、安芸厳島神社から市杵島姫命を勧請した。

この付近には平清盛の弟である平教盛の別邸があり、後白河法皇を幽閉した萱御所は、この教盛邸だと伝わる。

源平合戦の時、教盛の子供である通盛（みちもり）・教経（のりつね）の兄弟が陣を構えた。当時神社からは豊富な清水が湧き出ており、「陣場の井」と呼ばれた。

平家物語には、平通盛と妻小宰相局とがこの地で今生の名残を惜しんだとある。これに対して気性の荒い弟の教経が「戦場へ女性を連れてくるとは」と兄を叱咤したとか。

本殿の西には氷室の跡と伝わる岩屋がある。日本書紀によると、仁徳天皇の兄である額田大中彦皇子が狩りに来た時氷室を発見し、天皇に氷を献上したと伝わる。

⑩熊野神社

平清盛は福原遷都の際、王城鎮護の神として紀伊国の熊野権現を勧請した。権現とは、仏が人々を救済するため、神となってこの世に現れるとして、平安時代以降に広く浸透した。後白河上皇の信仰厚く、なんと34度も参詣したとか。

社殿は東を向いているが、これは熊野神社本殿にならったと言われている。

この神社は今も「夢野の権現さん」として地元の人々に親しまれている。



⑪願成寺

行基により天平年間に創建された。もとは現在の鳥原水源地付近にあり観音寺と号していたが、後に法然上人の弟子である住蓮坊により中興され願成寺と称するようになった。

清盛の甥の平通盛と妻小宰相局ゆかりの寺である。寺内には謡曲「通盛」に登場する平通盛と小宰相局の五輪塔がある。また、小宰相局の念持仏である延命地蔵が伝わる。

通盛は湊川の戦で山の手(鶴越)の砦を守っていたが、湊川の下流で討ち死にした。西国へと逃れる船でこれを知った小宰相局は夫の後を追って鳴門の海に投身自殺した。時に19才であった。小宰相局の殉死は、夫婦愛の深さを物語るエピソードとして伝わる。



(次回予告)

2024.4.27

兵庫史を歩く No.46 清盛の墓はいずこに??

平清盛の夢の跡をめぐる その2